

平成30年度第2回小田原市文化財保護委員会 会議概要

日 時 平成30年11月19日（月）午後1時00分～4時50分

場 所 開会（あいさつ）…小田原市役所301会議室
現地視察…上輩寺、寶泉寺、紹太寺・稻葉一族の墓所、住吉橋、郷土文化館
議事…小田原市郷土文化館会議室

出席者 文化財保護委員
相澤委員（委員長）、勝山委員（副委員長）、岡本委員、鳥居委員、松蔭委員、吉田委員、吉良委員
※欠席委員 平田委員、岩橋委員、大谷津委員
小田原市
教育長：栢沼教育長
文化部：安藤部長、遠藤副部長、大島管理監
文化財課：鈴木課長、山口副課長、内田副課長、田村副課長、峯田主査、
下澤主任
生涯学習課：岡副課長

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 現地視察
 - 行程に沿って現地視察を実施した。
 - (1) 上輩寺の五輪塔群（上輩寺 酒匂2-44-27）
調書②に基づき視察した。
 - (2) 絹本著色北条時長像（寶泉寺 風祭918）
住職から挨拶いただいた後、調書①に基づき視察した。
 - (3) 稲葉一族の墓所（紹太寺 入生田467）
資料2に基づき、復旧工事完了後の稻葉一族の墓所を視察した。
 - (4) 住吉橋（城内）
平成30年3月に架け替えが完了した住吉橋について事務局が説明した。
 - (5) 和田家文書（郷土文化館）
調書③に基づき視察した。

4 議事

(1) 協議事項

ア 市指定文化財新規指定候補について
事務局が資料1－1に基づき概要説明を行った。

【質疑応答】

(委員)

本来は、元箱根の精進ヶ池の五輪塔群、伝虎御前の墓、伝曾我兄弟の墓を見て比較する中で、上輩寺の五輪塔群を視察するのが良いと思った。調書には南北朝時代・14世紀後半とあるが、五輪塔はかなり財力がないと造立できない石造物である。酒匂の上輩寺は三基もあるので、地域の有力者を想定すべきである。かつて住職に私が伺った話では、酒匂氏は、幕府御家人として九州に行ったと聞いている。酒匂氏の分布は圧倒的に鹿児島が多い。足柄平野から出た大友氏や、その他小早川氏とか厚木から出た毛利氏などは、相模の国から出向いて西国で勢力を張って活躍している。本来ならば、地方の歴史を考えた上で石を見るのが大切である。寸法の違いだけで年代を特定すべきではなく、地方の歴史の背景をとらえた上で考察する必要がある。

そういう意味で、南北朝時代後半と特定するのはひつかかるということを意見として述べたい。また、酒匂氏にかかる住職の話を、事務局は聞いているか。

(事務局)

ご住職からは伺っていない。

(委員)

委員の意見は、もう少し時代を古くしていいという見解か、それとも時代が新しいという見解なのか。

(委員)

時代に幅をもたせた方がいいのではないかという意見である。南北朝時代後半に特定していいのか疑問に思う。精進池は鎌倉時代後半。そこまでいくかどうかは分からぬが、酒匂氏が活躍したのは鎌倉期に出てくるし、そのような財力がなければあの五輪塔ができるはずがないと考える。

(委員長)

酒匂氏はいつまで活躍したのか。

(委員)

『小田原市史』や『県史』など、文献資料では出てこない。『吾妻鏡』には出てくるが、没落するケースも多く、不明な点が多い。酒匂氏と結びつけることもできないとなると、様式で考察するしかない。精進池周辺の石造物は鎌倉時代後期である。それに比

べると上輩寺の五輪塔はだいぶ下がった時代の形であり、南北朝時代が妥当だと考える。特に真ん中の五輪塔の空輪・風輪は室町時代のもののようにも思う。3基同時に作るとかなり経済力が必要かもしれないが、3基同時に作ったとは考えにくく、有力者がいくつても、時宗の僧侶と（衆生とが）結縁して作る可能性もあるのではないか。

（委員長）

酒匂氏との関係があれば、鎌倉時代というご意見も出たが、様式から見ると南北朝時代。歴史的な裏付けがしっかりしないとなると様式を勘案するしかなく、これから研究に委ねることでよいのではないか。

（委員）

もし、南北朝時代にしても14世紀後半と特定できるものなのか。

（委員長）

専門家に調査を委託したものではないのか。

（事務局）

はい、石造物の専門先生、松井氏に調査いただいている。

（委員）

専門家の調査の報告を反証するだけの資料的な裏付けがないのではないか。

（委員）

この地域のこの規模の五輪塔は、精進池の五輪塔と上輩寺の3基である。職人は京都から呼んでいるのか。

（委員）

真言律宗の石工集団が奈良から来てその技術を伝えている。鎌倉時代末期の五輪塔を完成形として同様の形の石塔を作っていくが、時代を経て少しづつ形が異なってくる。様式的な変化からみて14世紀後半としているのではないか。

（事務局）

前回の保護委員会で松井氏による調査の報告書を添付したが、様式の特徴から南北朝時代、14世紀後半としている。松井氏に調査した時にお聞きした中では、鎌倉時代の終わりごろとは明らかに様式が異なっていることもあり、鎌倉時代にかかるような捉え方はしたくない、14世紀後半と特定できるとのことであった。

（委員）

調書の内容からは鎌倉時代とは異なる様式だと示されている。南北朝時代だけでもいい気もする。

（委員）

松井氏の見解だと、鎌倉時代の終わりとの混同を防ぐために14世紀後半としたいとするならば、南北朝時代としてもよいのではないか。

（事務局）

これまでの研究、『小田原市史』には「鎌倉時代末期ないし南北朝時代の特徴」と記

されているが、調査の際に松井氏は、「鎌倉時代ではない」と話されていたことを私も記憶しているので、南北朝時代であることが押さえられていれば良いかと思う。松井氏には確認しておく。

(委員長)

鎌倉時代の様式ではないということは示されるので、ここでは広く限定せずに南北朝時代に留めてよろしいか。調書の内容欄の下から二行目、南北朝時代のあと（）、（14世紀後半）は、削除してよいか。（了承）

(事務局)

軒面の高さ等の記載についてはこれでよろしいか。

(委 員)

「軒面の高さは狭い」という表現はいかがか。軒は厚い、薄いという表現ではないか。また、「軒面の高さ」という言い方は、地面から軒の高さと理解される懸念もある。「火輪の降棟の湾曲は少ないが、軒面の高さは狭い」とあるが、「火輪の湾曲が少ない」ということは、垂れ下がってくるから軒の厚さは少なくなり、軒が「狭い」ということになるだろう。また、軒面の「高さ」ではなく「幅」で、その幅が厚い、薄い、という表現になるのだと思う。そのような意見が出たことを、先ほどの件と合わせて、松井氏に事務局から確認して整理いただきたい。

(委員長)

「湾曲は少なく、軒面の幅は薄い」、といえるのではないか、ということを松井氏に確認して、事務局でこれら表現を整理していただきたい。次回はこれら表記について再び議論することはせず、事務局に任せる。（了承）

では、これら3件の新規市指定候補物件を市指定文化財にしていくための手続きに従って進めていくことでよろしいか。（了承）

(2) その他

ア 稲葉一族の墓所の復旧状況の確認について

【質疑応答】

(委 員)

斜面の下際から大木が生えており、また倒木の危険を感じる部分があるので、寺と相談して何等かの方策を立てた方が良いのではないか。参道から石がきっちとした形で階段に作られている。参道の石積みは技術も高く非常に貴重なものである。しかし、残念ながら、参道の脇の木が根を張って何か所か石を押し上げているので、指定地ではないものの、今のうちに寺と相談して対応できればと希望する。

(委員長)

難しい部分もあるが、墓所も含め、紹太寺とコンタクトをとっていただければと思う。また、『市指定史跡「稻葉一族の墓所」復旧工事の記録』を作成いただくことは、文化財保護委員会からもお願いしていたところで、今回よく作っていただいたと思う。ただ、これを実際に出した日付が示されていないが、いつになるのか。

(事務局)

平成30年10月、としていただきたい。また、本日から公開資料となる。

イ その他

(委 員)

小田原少年院の北側に梅林が出来て公園のようになっており、法務局の管理かと思うがそこは総構が小田急線をまたいで平地に入ってくる最初の場所である。平地部分は新玉小学校の東側の部分で残っている位で、ちょうど堀、土壘の延長線の幅に敷地があいている。少年院は、11月15日閉院式を迎えて年度末に完全になくなる。そうすると法務局が売るなり処分することになると思う。以前にも要望したところであるが、できれば、該当箇所を小田原市で購入するなり、史跡指定するなりして欲しいので、検討いただきたい。

以上